2017
4月号

あさお市民活動レポート

あさおふれんず

Asao friends

平成28年度麻生区地域課題対応事業
「あさお市民活動レポート」第2巻 第17号
発行日：平成２９年４月１日

発行元：認定ＮＰＯ法人あさお市民活動サポートセンター

出典「かわさき市政だより・あさお区版４月号」

この春、一歩踏み出したいあなたに

退職、進学、就職などにより、４月から生活環境が変わった皆さん、
この春から地域活動をしてみませんか。
活動したい団体を見つける手伝いをしてくれるサイトがオープンします。

気軽に団体が調べられます

活動分野、活動日、費用など、このサイトを使えば、自分の条件に合った団体の情報を調べることができます。また、相談窓口もあります。ぜひご活用ください。

問い合わせ先◇麻生市民館
電話（９５１）１３００
ＦＡＸ（９５１）１６５０

麻生区のホームページから

麻生市民活動団体検索サイト 検索

●検索サイトのアドレス
http://asao-act.org/

相談に乗ります！

市民活動、ボランティア活動、趣味や仲間作りまで相談者の声にこたえます。

場所◇麻生市民交流館やまゆり
日時◇毎週火曜・木曜
１３時３０分～１６時３０分
電話・ＦＡＸ
（２７２）７６０１

「手づくりの楽しさ」伝えたい
おもちゃと遊びの会

会員の皆さん。前列中央が代表の吉田さん。その右が副代表の妻静香さん（おもちゃと遊びの会提供）

シンプルでわかりやすい名称。その名が示す通り、「子どもたちにおもちゃをつくって遊ぶ楽しさを教えたい」という素朴な思いから生まれ、活動している会だ。

小さいころから日用品や遊び道具をつくるのが好きで、会社勤めや自営のかたわら、造形作家としてものづくりを続けてきた代表の吉田幸雄さん。ゲーム世代の子どもにもおもちゃを手づくりする面白さを伝えようと、麻生市民館の市民自主企画事業に応募して催しを開いてきた。２０１４年度からの３年間で、親子で参加する「おもちゃを作って遊ぼう」を８回、幼児向けの「にこにこ広場」を４回開催。参加者はおよそ３７０人にのぼり、会を支える仲間もしだいに増えた。

つくったのは木やペットボトル、紙など身近にある材料を使った簡単おもちゃ。たとえば厚紙を丸く切って貼り合わせ、十円玉の重りをつければ、たちまち「起き上がり小法師」の完成だ。一方、ゲストを招いて表現遊びや昔の遊びなどを楽しむ場も催しのなかに設けてきた。

手づくりおもちゃの数々

今年度は、おもちゃづくりと、獅子舞や太鼓を楽しむイベントを組み合わせた「おもちゃと遊びのまつり」を７月３０日に開く。そのほか「にこにこ広場」を４回、おもちゃや遊びの講習会を月１回ずつ開く計画。「おもちゃも遊びも奥が深い。これは世代を超えたコミュニケーションづくりなんです」と吉田さん。さらに幅広い活動も構想中だ。

取材・文　区民記者　佐藤次郎

DATA
おもちゃと遊びの会
代　表：吉田　幸雄
連絡先：omochatoasobi@yahoo.co.jp
設　立：2014年3月
会員数：14名。大人から子どもまで広く会員募集中
今後の予定：「おもちゃと遊びのまつり」7月30日（日）10～16時　麻生市民交流館やまゆりで開催
フェイスブック：https://www.facebook.com/omochatoasobi

Don't worry. Sing out loud!
あさおポップスコーラス

取材のため練習所に訪れる。新曲を練習しますと譜面を渡される。ピアノ伴奏で譜面を見ながら新曲を歌うなど学生以来初だ。西村先生のピアノを囲むように座り発声練習からはじまる。

ソプラノから５声部、各パートをピアノで弾き、初見で歌いだす。バスのパートまで２、３回各パートを「ドレミ」などで歌う。全員で合わせ、次に歌詞で歌う。記者も２時間、譜面を見ながらバスパートを歌う。必死でついていく。指導は厳しいものではなく「明るく」とか「楽しく」の指示が印象的だ。あっという間に時が過ぎる。こんなに頭を使って集中したのは久しぶり。次第に美しいハーモニーが聞こえるようになる。楽しい。

あさおポップスコーラスは結成３０周年、団員の定着率が高い混声合唱団である。節目に行うコンサート、そのレパートリーの多様さと数に驚く。英語の歌詞や日本語訳詞など全員暗譜である。

ポップスを合唱することは、アーティストとして、創造性にこだわる氏の挑戦だ。１００を超えるレパートリーは独自のアレンジや「耳コピー」による編曲、または氏の作曲である。ポップスを素材にしたとっつきやすさと聴きやすさ、それに歌うことの楽しさ。団員の音域や個性を頭に、歌いやすくもオリジナルの音楽性維持には妥協しない編曲。持ち駒に応じて最強の手を打ってくるプロ中のプロの仕事だ。

やさしく人懐こい笑顔のお酒と温泉大好き先生と、気さくで面倒見よく美しい歌声のマナ奥様との二人三脚。大家族にも似た合唱団、週一回の練習、出席率は高い。合宿や団員同士のお仲間活動も生まれ、音楽を通して人との交流が盛んである。

取材・文　区民記者　景山茂

西村勝行さんは東京芸大出身（声楽科）現・昭和音大講師（ミュージカルコース）30周年記念コンサート
英語の歌をこれだけ暗譜できれば語学力もアップ！

DATA
あさおポップスコーラス
代　表：西村　マナ
連絡先：Tel.044-966-6986
設　立：1986年
会員数：33名
活動日：毎週火曜 19～21時
活動場所：麻生市民館視聴覚室ほか

さあ 楽しい時間のトビラを開こう！
ふれあい・いきいきサロン

住み慣れた地域で老いも若きも誰もが集い、気軽に触れ合える会が２ケ所で開かれている。１ケ所目は第２金曜に開催。小学唱歌や昭和歌謡などを歌い、輪投げ、ビンゴ、ときには落語やマジックを楽しむ。自分達で創作した言葉遊びのカードゲームは、頭を使うので意外と人気がある。２ケ所目は第４金曜に開催される。こちらはおしゃべりや歌のあと、カレー、ちらし寿司、おかゆなど毎回違った昼食を楽しむ。

地域の自治会長だった鷹取さんが社会福祉協議会から、王禅寺は高齢化率が高いので、サロンを開いて欲しいと言われたのがきっかけでこの会をはじめた。今では、スタッフと参加者で３０から４０人が集まりにぎやかだ。利用者の入れ替わりはあるが、特別なイベントのとき以外は、若い人の参加がないのが寂しいとのこと。

利用者をふやすコツを聞いたが、「自分が参加するときに、近所の知り合いを誘って連れ出す。これが一番」。一度参加して楽しい時間を過ごし、知り合いになれば、リピーターになる。新しい世界が待っていること請け合い。誘いにのって出かけてみよう。

鷹取さんに当面の抱負を聞いたが、５年の区切りごとに記念行事を開いてきたので、２年後に２０周年記念行事を開きたいとまえむきだ。

取材・文　区民記者　中島久幸

ちらし寿司にサラダ、吸い物。デザートは羊かん
（王禅寺いこいの家にて）

会が創作した、参加者の名前当てビンゴを楽しむ（新百合ケ丘コミュニティセンターにて）

DATA
ふれあい・いきいきサロン
代表者：鷹取（たかとり）順子（じゅんこ）
連絡先：Tel.044-955-4980
設　立：1999年5月
参加者（含スタッフ）：30～40名／１回（内男性2～5名）
年代：60～90歳
参加費：毎回300円（お菓子代、保険料）
活動日・場所：毎月第2金曜10時30分～12時
新百合ケ丘コミュニティセンター（王禅寺ゆりストア隣）
毎月第4金曜10時30分～13時
王禅寺いこいの家

鶴見川は水鳥の宝庫

春まだ浅い３月５日、麻生市民館岡上分館主催による「おかがみ散歩」の２回目が開催された。この企画は齋藤透さん（和光大学地域・流域共生フォーラム）による写真と説明を聞きながら、鶴見川流域を散策し、主として水鳥の観察をするものだ。

定刻に集まった参加者は約１０名。希望者は本格的な双眼鏡を借りることもできる。この日は、岡上分館に集合後、齋藤さんなどから簡単な説明を受け、大正橋、古川公園などを経て、川の対岸に渡り再び出発点に戻るというコースだった。

目にすることができた鳥は、全部で20種類以上。それだけではない。まさかこんな地域に？と驚くような場所に、イタチがいるという。真っ赤なくちばしなのにすぐ草陰に隠れてしまうシャイなバンや、ダイブして小魚を捕食するカワセミの姿も観察でき、家路は心ゆたかなものになった。

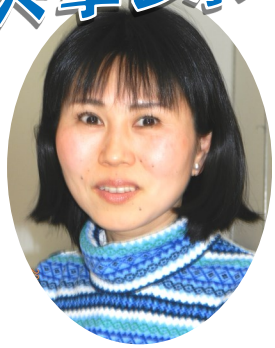
こんな感じで、今、目の前にいる鳥を拡大写真とともに親切に説明してくれた。

カワセミです。別の日の撮影ですが同じ個体と思われる。齋藤氏提供

取材・文　区民記者　仲原照男

突撃レポート

発達障がい児の親子に笑顔を！ 青山さんの今



青山さんです。小柄でもこぼれるような笑顔とパワーの持ち主。

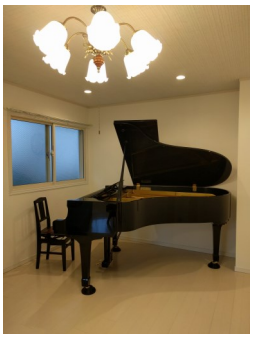
青山陽子さん。彼女は発達障がい児（注1）侑喜（ゆうき）君の母親である。いままで多くの辛さと悲しみ、そして出会いと喜びを経験してきた。

侑喜君の障がいに気づいたきっかけは摂食拒否だった。医師の診断で原因が発達障がいと判り、深い悲しみとともに微かな安堵も感じたが、家でも外でも数秒たりともじっとしていない侑喜君の世話に、心身ともに追いつめられ「虐待に走る親の気持ちが想像できました。」と振り返る。

そんな彼女を救い、変えたものがある。「ボランティアの方に侑喜の面倒をみていただき、助けてくれる人の有難さを感じた。いつか自分もそんな存在になりたいと思いました」。また、元特別支援学級教諭で著名な作家の山元加津子さんには「ほかの子と自分の子を比べて嘆くのではなく、その子ができることを伸ばしてあげること。そうすれば世界は明るく変わる。そんな素晴らしい生き方について発信することも親の仕事」と教えられた。さらに、父親の介護の傍らボランティア活動を続ける母親が「介護の仕事は楽しいよ」と語る笑顔など、真摯で美しき心の人々との出会いが彼女を明るく変えた。

彼女の人柄と情熱は、いま共感と支援の輪として実を結び、3月、仲間と一緒に発達障がい（自閉症）児などのための放課後デイケア施設を立ち上げることができた。そこには声楽家大森寿枝さんから寄贈されたグランドピアノが用意されているほか、開設を記念したコンサートも開かれるという。（注2）

彼女にとって「辛さと悲しみ」は過去のものになったようだ。



寄贈されたグランドピアノ

（注1）発達障がいとは、主なものに自閉症、アスペルガー症候群、注意欠陥性多動障害などがある先天性の脳の機能障害と考えられている。**原因について一時期、親の愛情不足、しつけなどが取りざたされたこともあったが、それらは現在全て否定されている。**本人や家族も障がいと気づきにくいため、誹謗中傷や自責の念から追いつめられることも少なくないといわれる。（磯部 潮「発達障害かもしれない」（光文社新書P10－P14を要約）。

（注2）「モーツァルト放課後・新百合ヶ丘」のオープニング記念コンサートは左記のとおり。
演奏◇ヒューマンハーモニーオーケストラメンバー
日時◇4月8日（土）10時30分開演（10時開場）12時終了予定
場所◇モーツァルト放課後・新百合ヶ丘
料金◇無料、入退場自由。要予約　※希望者は必ず、電話またはメールで予約を（駐車場はありません）
詳細は、電話、メールでお問い合わせください。
連絡先◇モーツァルト放課後・新百合ヶ丘
e-mail
im.yoko.aoyama@gmail.com
電話（455）7424

取材・文　区民記者　仲原照男

取材申込受け付けます！

「活動を紹介して欲しい」「イベントを取材して」
そんな声に区民記者が応えます。
お申込み内容を編集会議で検討したうえ
改めてご連絡させていただきます。

●応募条件
麻生区を拠点に活動している。または、麻生区在住・在学・在勤者が活動に参加している。

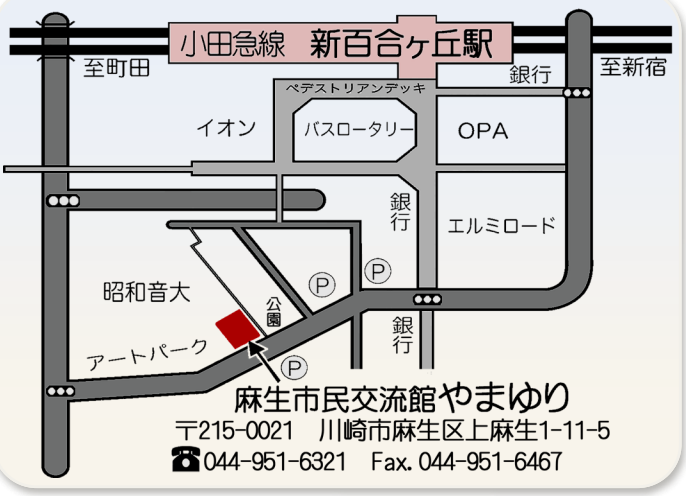
●申し込み方法
❶ 団体名　❷ 代表者名　❸ 連絡先（電話・FAX・メール）
❹ 活動内容（イベントの場合は開催日時・料金・内容）を、「あさお区民記者」宛てにFAXまたはメールでご連絡ください。

FAX.044-951-6467
Mail ✉ info@asao-ku.net

※但し、選挙、政党・政治団体など政治活動に関わるもの、宗教団体による布教推進を目的とするもの、プライバシーの侵害や業務妨害のおそれのあるもの、差別を助長するものは掲載できません。

あさお区民記者クラブ

「区民による　区民のための情報発信」を目的に活動。
過去の記事や取材後記はホームページをご覧ください。
http://www.asao-ku.net



平成28年度麻生区地域課題対応事業「あさお市民活動レポート」第2巻 第17号　平成29年4月1日発行　発行人：植木昌昭　編集人：佐々木直子